

理学療法における脊柱側弯症特有の運動に関する SRS の声明 - 2014 年 5 月

理学療法による側弯症特有のエクササイズ:側弯症研究協会

M. ティモシー フレスコ医学博士: SRS 非手術委員会委員長

2014 年 5 月 19 日

理学療法による側弯症特異的エクササイズ (PSSE) は、小児および青年の進行性変形を防ぐための矯正治療の補助的治療法として提案されています。PSSE は、側弯症の変形に伴う痛みのある成人患者にも適用されています。PSSE の共通原理には、自動矯正、伸長、胸壁拡張が含まれ、日常生活に「矯正された」姿勢が組み込まれます。ヨーロッパ全土で側弯症治療のためのプログラムがいくつか提案されています。最初の提唱者の 1 人はドイツの Katharina Schroth で、彼女はスパのようなコンセプトに基づいて側弯症治療クリニックを設立しました。Schroth テクニックは、集中的な初期評価および治療計画に発展し、数週間にわたる居住プログラムと、それに続くグループおよび個人の治療セッション、それに続く毎日の自宅でのエクササイズ、および定期的な理学療法セッションが含まれます。Schroth のコンセプトから発展した他の「流派」の側弯症理学療法には、外来プログラムでエクササイズを習得する Schroth-Barcelona School (BSPTS) などがあります。ヨーロッパでも、イタリアの SEAS、ポーランドの Dobomed と FITS、イギリスの「サイドシフト」など、さまざまなアプローチが開発されました。セラピストは、理学療法士、整形外科医、医師で構成されるリハビリテーション チームと連携しながら、脊柱側弯症の個々の患者の治療にこれらの「流派」のいくつかの原則を取り入れることがあります。

進行性特発性側弯症の治療では、脊柱矯正器具による管理と併せて理学療法による側弯症特異的運動が使用されています。この 2 つの方法を組み合わせると、より簡略化された治療計画よりも利点がある可能性があります。現時点では、進行性特発性側弯症の治療において、装具の代わりに PSSE を提供することを支持する証拠はありません。一部の PSSE プログラムが非特異的運動やコントロールと比較して優れていることを示す証拠もありますが、その適用性について一般的な見解を述べるにはまだ時期尚早です。文献にあるほとんどの研究は、専門の側弯症クリニックで管理されている特定の患者の症例シリーズに基づいています。治療結果を一般集団に拡大できるかどうかは不明です。さらに、PSSE の効果が維持され、時間とともに側弯症が悪化しないことを確認するために、さらに追跡評価を行う必要があります。北米に典型的なコミュニティ環境での潜在的な適用について、PSSE と同じ原則を強調した治療プログラムが調査されています。

現時点では、中等度の側弯症には装具治療、青年期の進行性側弯症や成人の痛みを伴う側弯症には外科的治療が有効であるという確固たる証拠があります。脊柱変形患者の治療を最適化するには、側弯症の早期発見が最も重要です。早期発見には、すべての医療従事者がリスクのある青年期の脊椎を身体検査することが含まれます。その後、変形が検出された患者に対して個別の治療プログラムを確立できます。

脊柱側弯症研究協会 (SRS) とその会員は、非手術的、手術的、および併用的治療法を含む各患者に対する最適な治療を積極的にサポートしています。SRS は脊柱側弯症の治療における運動の役割に関するパイロット研究をサポートしており、今後もサポートしていきます。SRS は、脊柱側弯症整形外科およびリハビリテーション治療協会 (SOSORT) と連携して、装具、理学療法による脊柱側弯症運動、およびその他の非固定治療を含む脊柱側弯症の治療方法の研究ガイドラインの開発を進めています。